

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第75放送の概要 (2014年1月25日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なか (中嶋邦弘)

## コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)  
アコ (三木文子)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)  
いっちゃん (一ノ瀬悟)

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」, 抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コローレではおいしいコーヒーや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。本日は「神戸ルミナスホテル」様 (TEL: 078-511-7700) のご協力を頂きました。

(CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさで安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供するペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046) の御協力を頂きました。

## 1. オープニング

ノロウイルスによる流行性腸炎の報道が、毎日続いています。ノロウイルスには抗生物質が効かず、特效薬がありません。ノロウイルス感染症は、牡蠣などの2枚貝の生食による食中毒が有名です。予防には手洗いが有効で、インフルエンザウイルスと違い、アルコール消毒が効かないので、30秒ほど石鹸で洗い流すのが有効です。ヨーグルトなどに含まれるラクトフェリンは、腸幹細胞に付着するウイルスを付着しないようにする効果があるそうです。ヒトからヒトへ感染して拡がっていくので注意しましょう。家庭内の消毒はキッチンハイターが効くそうです。

## 2. ゲストコーナー(1): 山口佳奈さん (JICA 青年海外協力隊参加)

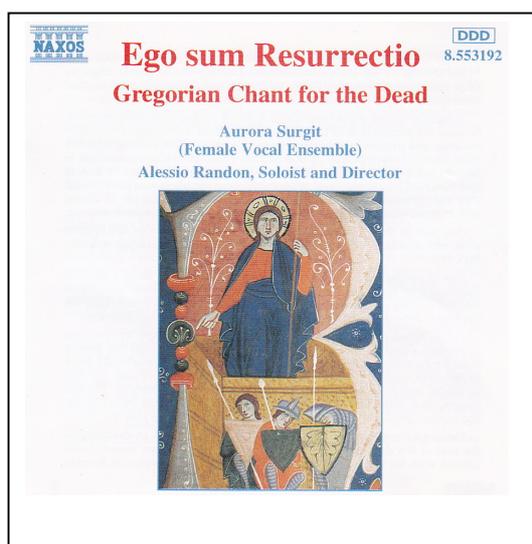
中学校は近江兄弟社学園。お父さんがスペイン駐在になったので、中学卒業後スペインのカタルーニャ州のバルセロナから90km離れたジローナ県(ヘローナ県)ジローナ市(ヘローナ市)で生活。高校はバルセロナのイギリス系インターナショナル校に入学。初めは電車通学していたが、乗り換えがあり、ダイヤ通りに動かず、自分の時間がとれなくなったので、バルセロナ市内のカタルーニャ語の得意なおばあちゃんの下宿し、週末は実家に帰っていた。スペイン語は数カ月家庭教師に学んだ。下宿は自炊で、電気の使用を抑えるように言われたので、炊飯器が使えず鍋で炊いた。パンやパスタは問題なかった。パエリアは家庭では日常的に食べているものではない。米はサラダ感覚で食べられていた。町を歩くとお年寄りが人生を謳歌しており、ハイヒールを履きピンクのドレスを着て、かっこいい帽子を被りパイプをふかし、ビーチでも体型を気にせず、冬でも薄着をしたり、夏に皮ジャンを着る人もおり、自分らしく生きている姿に驚いた。当時はバルセロナオリンピックの年で世界から目を向けられていた。

インターナショナル校はイギリス人の先生による教育で、日本と同じ教室スタイルで違和感はなかった。インド、韓国、台湾、日本人など母語が英語以外の生徒が多かった。日本では部活や文化祭などで皆で頑張ろうと言う雰囲気であるが、個人主義のため、授業が終わるとハイさようならで、部活はなかった。集団活動はスキートリップで、アンドラ公国に行く程度であった。

将来日本で仕事をすることを考えると、日本での勉学が必要と考え、帰国し日本の大学を目指すことにした。おばあちゃんと暮らした事が影響し、福祉の世界が気になりだし、福祉を学べる大学を選んだ。帰国子女入試を選び、総合大学で色んな事も学びたかったので、関西学院大学社会学部社会学科に入学し、3回生から社会福祉を専攻した。近江兄弟社学園の創設立者のヴォーリスと関わりの非常に強い関学を選んだのは不思議な縁と思った。卒論のテーマは、在留外国人の福祉について書いた。4回生からは実家から通学し、滋賀県の日本語教室のボランティアをしていたので、卒論には自分が活動していたNGOの経験も含めて書いた。当時は大学でそのようなテーマを扱う人はいなかった。スペインでは自分が外国人として見られて暮らしていたので、在日の外国人の方がどんな生活をしているか、困っていないかなどがずっと気になっていた。

### 3. ミュージックコーナ：グレゴリオ聖歌 *Regem cui omnia vivunt*

大塚美術館に行った時に、教会を模擬した部屋のバックグラウンドに流れていた曲です。心が癒され落ち着く曲です。



### 4. ゲストコーナ (2)

卒業後は滋賀で就職した。高齢者福祉の施設を考えていたが、滋賀県立視覚障害者センターの指導員として就職した。ここではボランティアを養成し、展示や録音の形に変えた資料を作成、提供していた。また白杖で歩行が可能ないように訓練する歩行訓練士もいた。山口さんは音訳図書を担当し、行政のものはそのまま提供し、図書館として貸し出しもしていた。

音訳はボランティアが先生から本の読み方を学び、録音室で当初はテープに録音し、その後デジタルに変わった。また過去のテープのデジタル化の仕事も多かった。社会人初のこの仕事で、正しい日本語を学ぶ事が出来た。元アナウンサーが講師で、日本語の基礎を学び、音訳資料を作る時にグラフや写真を文字にどのように変えて説明するかを学び、その後の仕事に役立った。直接人に関わる仕事でないという思いがあり、物足りない思いを感じていた。

視覚障害者センターに勤めながら、休日は日本語教室のボランティアを続けていたので、その知識と経験、プラスやりたい情熱を合わせて出来そうなこととして、友達が JICA 青年海外協力隊に参加した事があり、卒業 4 年目に応募した。応募の経験欄には、視覚障害者と関わった事、高齢者、外国人につ

いて勉強したことなどを書いた。派遣依頼元のオファーを読むと、ドミニカ共和国が養護学校のソーシャルワーカーを募集していたので、子供の生活状況が気になり、スペイン語圏でもあり行くことにした。ソーシャルワーカーとは、困った事を聞きとり、一緒に共感してあなたのやりたい道を探しますという仕事。福祉の施策に精通し、制度を活用し、介護の計画を作る手助けなどをする。しかし日本でも海外でも、ソーシャルワーカーという言葉は必ずしも十分理解されていない。

ドミニカ共和国に赴任後、地方の小さな養護学校をソーシャルワーカーとして訪問した。初めは壁面装飾を先生と一緒にやったり、手探りで仕事をしていた。前前任者の仕事である、ODAによる校舎の建て替えプロジェクトの建設が中断している事がわかり、日本大使館に行って状況を聞き、建設会社とのトラブルを解消し、工事を再開し、帰国後校舎は完成した。

この仕事の目途がついた時、首都サントドミンゴに視覚障害者を対象にしたNGOがあり、そこに向き、現地の状況について話を聞いた。ソーシャルワーカーは養成中であった。どのような仕事をしているか興味が湧き、JICAと相談し、サントドミンゴのNGOに任地変更をした。サントドミンゴは200万人都市で、仕事は毎日4~5人のスタッフが車に乗り、村をアポなしで巡回した。村にどのような障害者がいるかは把握されているので、最近の様子、困ったことはないか、栄養状態、経済状態などを聞き、フルーツの苗を貸し出し、出来たものの販売支援、白杖を貸与し歩行訓練などをした。女性はおしゃれ好きでメイク法を教えたりした。その時の家庭訪問、視覚障害者とのふれあいなどの多くの体験がとても楽しく、その後にかせると思った。

帰国後、**滋賀県彦根市近辺の彦愛犬（げんあいけん）地域障害者生活支援センター**相談員になり、ここは3障害（身体、知的、精神）に対応しているので経験が広がった。センターでは身体障害者の担当になったが、障害を3つにカテゴリー化するのは難しい事もあり、一人一人のパーソナリティを見ながら、どのようなアプローチがよいのか、毎日が手探りであった。心を開いてもらうのに何年もかかったこともあった。

アメリカより来日した重度の身体障害（脊髄損傷）を持った大学生の、1年間の留学期間中のケアについて、起床から勉強できる状態に持って行き、シャワーをしたり、着替え、寝る事など全てに人手が必要で、人材が豊富でない地域で、ケアプランの作成に苦労した。大学生に有償ボランティアに入ってもらい、医師、作業療法士、看護師、多くの人がチームとして繋がり、皆が喜んでケアする状態になった。

リーマンショックは、外国人労働者（ペルー人、ブラジル人他）の多い滋賀県に大きな影響を与え、多くの派遣労働者の失業者を生んだ。地域のハローワークでは支えきれないので、滋賀県は**求職者総合支援センター及び滋賀県多文化共生地域づくり支援センター**を設立し、失業相談、生活相談をワンストップで受けることにした。多文化共生地域づくり支援センターは、県発行の文書の多言語化、求職者に金の貸し付け情報、低家賃の県、市営住宅情報など、ハローワークの補佐の仕事をしていた。このセンターのコーディネーター兼相談員として従事した。福祉の相談員であったが、タガログ語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の通訳・翻訳スタッフ6名のコーディネートもした。

今は仕事を辞めて育児に専念しているが、自分も楽しめるほっこりした場を提供したいと思い、親子サークル、**バモス・アミーガス**（ようこそ皆おいでよ）を昨秋より立ち上げ、月1回活動している。この活動を広げていきたい。

阪神大震災時は、前日16日にスペインに向けて出発したので、スペイン到着まで知らなかった。2週間後に帰宅した時、下宿の室内が滅茶苦茶になり、目の前のマンションが潰れ、様変わりしていることにびっくりした。



カタルーニャ州の位置



カタルーニャ州



ヘローナの風景



バルセロナの風景



普段通っていた市場（バルセロナ）



ガウディ設計サグラダ・ファミリア



ドミニカ共和国



養護学校の様子



再建された学校

## 5. 地域瓦版

神戸の春を呼ぶ風物詩、南京町春節祭が1月31日（金）～2月2日（日）まで開催されます。イベントでは47mの金の龍（ロンロン）が練り歩きます。節分の日、長田神社では古式追儼式（鬼追い）と節分行事行われ、7匹の鬼が松明の炎で災いを焼き尽くし、太刀で不吉を切り捨て、灰を被ることでお祓いを受けます。県の無形文化財に指定されています。



長田神社追儼式

## 6. 来月のゲスト

兵庫高校の現役の生徒さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>